「しまなび」プログラムにおけるコーディネーター（地域住民）を活用した学びの仕組みの開発（その３）

研究年度　平成２９年度
研究期間　平成２９年度～平成２９年度
研究者名　特任教授　中　島　　洋

Ⅰ　はじめに

長崎県立大学はグローバルな視点を持つとともに、地域課題に主体的に取り組むことができるグローカル人材の育成を図るため、学生の課題探求能力や問題解決力を涵養する教育プログラム（「しまなび」プログラム）を設け、地域を学ぶ実践的な体験学習等を実施している。

本プログラムは、ＰＢＬ（project　based　learning　課題解決型学習法）学習法で展開され、主体的・実践的な学び（ＡＬ：アクティブラーニング）が基本であり、「しま」とのやりとりも学生自らが自主的・積極的に行うことになっている。

学生は、「しま」の実態に即した計画を作成し展開するため、「しま」からの多種多様な助言・支援が求められる。

このため、各「しま」にコーディネーターを置き、「しま」からの助言・支援を受けている。

Ⅱ　研究内容

「しま」のコーディネーターと学生の相互のやり取りのスムーズな展開を支援し計画等に反映させるため、学習支援システム（名称　manabie）を導入している。

学生は、学習支援システム（manabie）を通じて計画を作成していくが、相互にとってスムーズな展開を行うためには、学生とコーディネーターとのやりとりにおける種々の課題を把握、整理し、学習支援システム（manabie）上に反映し、学生及びコーディネーターが活用しやすいシステムの構築が求めれれる。

これらのことから、本研究の目的を次のこととした。

「学生とコーディネーターとが相互に進捗状況に応じて情報が共有できる manabie の改善と構築」とした。

特に、コーディネーターから見て学生の動きが把握できる manabie の構築に留意した。

Ⅲ　平成３０年度に向けての改善点

平成２９年度の「しまなび」プログラム終了後に本プログラム全体に対して、改善を求める学生からの意見、コーディネーターからの指摘を聴取したが、次のようにまとめることが出来る。

（１）年度を越えたテーマの継続性

（学生、コーディネーターからの意見）

（２）「しま」の意見（要望）をテーマに反映させる

（コーディネーターからの意見）

（３）フィールドワーク終了後も継続した活動

（学生、コーディネーターからの意見）

（４）先輩の経験の活用

（学生からの意見）

（５）コーディネーターと学生とのスムーズな連携

（学生、コーディネーターからの意見）

（６）客観的な根拠に基づくテーマの設定

（コーディネーターからの意見）

（７）コーディネーターと学生との連絡方法の改善

（コーディネーター、学生からの意見）

このうちコーディネーターと学生とのスムーズな連携において manabie システムに改善が必要な（５）・（７）についてシステムの検証と改善を実施した。

Ⅳ　平成３０年度に向けて具体的改善が必要な事項

（１）　フィールドワークの計画時における「具体策」に関して、学生がコーディネ

ーターに対応を依頼するかどうかの相互の把握の徹底

（２）学生がコーディネーターに対応を依頼する内容の確認

（３）フィールドワークにおける協力者や許諾等に関する必要性についての相互の理解の徹底

（４）コーディネーターからのコメント（アドバイス）に対する学生の確認状況の相互の把握の徹底

（５）フィールドワークの計画時における「具体策」に対するコーディネーターの取り組みの進捗状況の相互の把握の徹底

（６）コーディネーターと学生との連絡手段の改善

（７）「具体策」に対する学生の取り組み（進捗）状況の相互の把握の徹底

（８）コーディネーターからのコメント（アドバイス）に対する学生の確認状況の相互の把握の徹底

Ｖ　具体的な改善策

（１）フィールドワークの計画時における「具体策」に関して、学生がコーディネーターに対応を依頼するかどうかの相互の把握の徹底については、

具体策に関して、学生はその対応をコーディネーターに依頼するか、どうかを選択し、依頼する場合は「依頼」をチェックすることとし、依頼する場合のみコーディネーターは対応する。（6ページ、解説1参照） とし、コーディネーターが判断できるようにした。また、このことを学生を指導する機会を設け、徹底することにした。

（２）学生がコーディネーターに対応を依頼する内容の確認については、

依頼に用いる画面の下に学生用の「コメント欄」を設け、コメント欄に依頼したい内容を入力し、それを通じてコーディネータは内容を確認する（6ページ、解説1・3参照）ことにした。

（３）フィールドワークにおける協力者や許諾等に関する必要性の相互の理解の徹底については、

コーディネーターが協力者・実施許可・料金について「要」・「不要」を指示し、「要」の場合は、実施月日、場所、内容などのアポを急いで確定させる。（6ページ、解説2参照） とし、必要性を相互が理解できるようにマニュアルの表示を分かりやすくするとともに、学生を指導する機会を設け、徹底することにした。

（４）コーディネーターからのコメント（アドバイス）に対する学生の確認状況の相互の把握の徹底については、

グループのリーダー・副リーダー、この具体策の主担当・副担当の名前が、コメントの下に表示され、リーダー・副リーダー・主担当・副担当コメントを読んだことを「既読」の表示によりコーディネーターが理解できるようにした。（6ページ、解説4　参照）さらに、相互が理解できるようにマニュアルの表示を分かりやすく　するとともに、学生を指導する機会を設け、徹底することにした。

（５）フィールドワークの計画時における「具体策」に対するコーディネーターの取り組みの進捗状況の相互の把握の徹底については、

まだ対応していない場合、対応している最中は「C　未対応」と表示し、 対応　　が完了した場合は、「C　対応完」と表示。コディネーターとしての対応が必要ない場合、できない場合は「C　対応不要」と表示される。（7ページ、解説5及び7ページ、解説7参照）とし、進捗状況を相互が把握できるようにした。

さらに相互が理解できるようにマニュアルの表示を分かりやすくするとともに、学生を指導する機会を設け、徹底することにした。

（６）コーディネーターと学生との連絡手段の改善については、これまでコーディネーターが学生に指示をコメントにて発信した場合、学生の学内メールにて発信をした旨を連絡していたが、学生が学内メールを確認しないケースが多く見られたことから、相互の理解と連携がうまくいかない状況があった。

このため、学生が学内メールを確認しない場合は、学生の携帯鯛電話にショートメールを発信し、コーデネーターから連絡があることを確認させることにした。

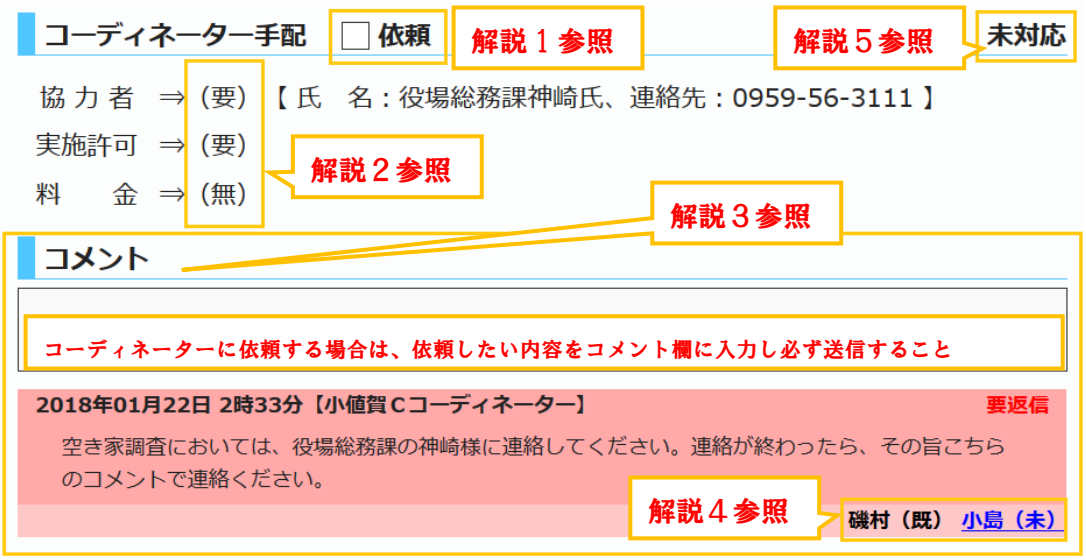
（７）フィールドワークの計画時における「具体策」に対する学生の取り組みの進捗状況の相互の把握については、

まだ取り組んでいない場合、取り組みの途中は、「S　未取組」と表示され、取り組みが完了した場合は、「S　取組完」と表示される。（7ページ、解説6参照） とし、捗状況を相互が把握できるようにした。

（８）コーディネーターからのコメント（アドバイス）に対する学生の確認状況の相互の把握については、

具体策画面のコメント欄（下部欄）に表示されるコーディネーターから発信されたコメントのうち、学生が確認して（読んで）いない数が表示される。（7ページ、解説8参照）とし進捗状況を相互が把握できるようにした。また、学生を指導する機会を設け、徹底することにした。

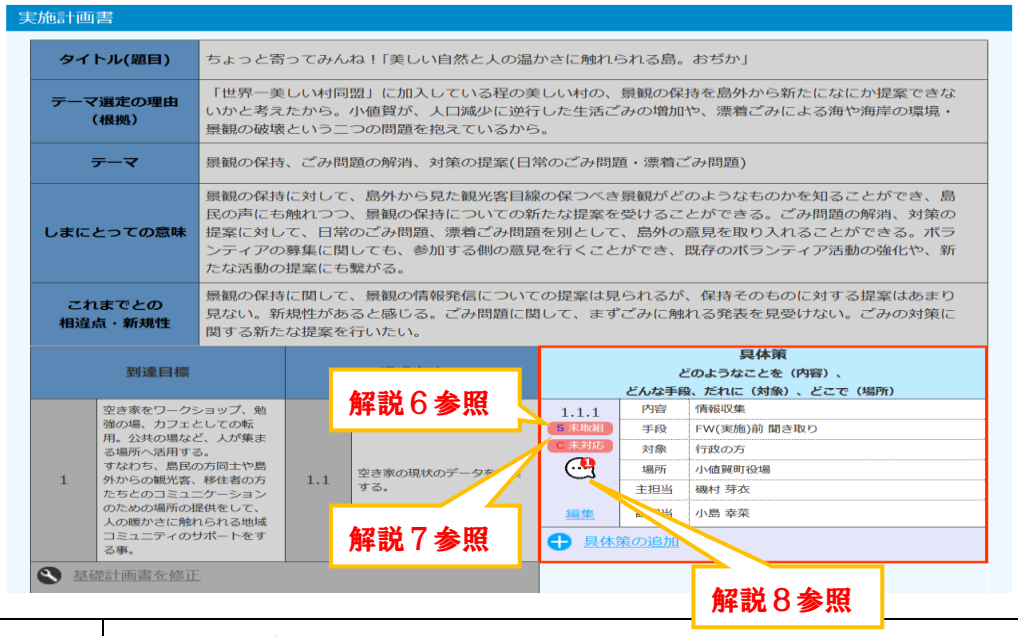
コメント欄を活用することでの、学生・コーディネーターとの相互の連絡方法



解説１ （重要）	具体策に関して、その対応をコーディネーターに依頼するか、どうかを選択し、依頼する場合は「依頼」をチェックします。 依頼する場合のみコーディネーターは対応します。 コーディネーターに依頼したい内容を学生のコメント欄に入力し、必ず送信すること。
解説２ （重要）	コーディネーターが協力者・実施許可・料金について「要」・「不要」を指示します。「要」の場合は、実施月日、場所、内容などのアポを急いで確定させます。 （アポの確定には、直ちに取り組みことが重要です。）
解説３ （重要）	コーディネーター・「しま」市町職員・先生から、この具体策についてのコメントが表示されます。 学生は返信できます。 コーディネーター・「しま」の市町職員・先生との相互の連絡にはコメント欄を活用します。 コーディネーターに依頼したい内容を学生のコメント欄に入力し、必ず送信すること。
解説４	グループのリーダー・副リーダー、この具体策の主担当・副担当の名前が、コメントの下に表示されていますので、リーダー・副リーダー・主担当・副担当コメントを必ず読み、「既読」の表示にします。 状況に応じて、学生は返信でき、コーディネーター・「しま」の市町職員・先生との相互の連絡に活用します。

解説５	依頼に対してコーディネーターが未対応または対応中の場合、「未対応」 対応完了した場合、「対応完」と表示されます。

学生、コーディネーターの対応状況の確認について



解説６	学生側の取り組み状況が表示されます。 それぞれの具体策への取り組みが完了するまで行ないます。 まだ取り組んでいない場合、取り組みの途中は、「S　未取組」と表示されます。 取り組みが完了した場合は、「S　取組完」と表示されます。
解説７	（具体策に関する）学生からの依頼に対するコーディネーター側の対応状況が表示されます。 まだ対応していない場合、対応している最中は「C　未対応」と表示します。 対応が完了した場合は、「C　対応完」と表示します。 コーディネーターとしての対応が必要ない場合、できない場合は「C　対応不要」と表示します。
解説８	学生にコーディネーター・市町職員から発信されたコメントのうち、学生が確認して（読んで）いない数が表示されます。 コメントは具体策画面のコメント欄（下部欄）に表示されています。

Ⅵ　改善された学習支援システムのコーディネーターへの周知・習熟

改善した学習支援システム（manabie）をコーディネーターが十分に習熟し、活用できるよう、平成３０年１月下旬～２月上旬に各しまを訪問し、コーディネーターへの周知、質疑応答、意見交換を行った。

また、改善した学習支援システム（manabie）に習熟するため、実際にシステムを運用する研修会を平成３０年２月２２日に開催した。

Ⅶ　おわりに

「しまなび」プログラムの manabie システムは、平成２７年度の使用開始年度は学生の運用に主眼をおいたものであった。

しかしながら、システム構築・開発上に時間の制限もあり、コーディネーターと学生との連携に立った視点が不足し、連携上に多くの問題点が露見した。

このため、平成２７年度のフィールドワーク終了後に、コーディネーターと学生との連携運用がより可能となるために検証・検討を行い、改善の後、平成２８年度の「しまなび」プログラムに活用した。

しかし、学生、コーディネーターの両者の情報の共有に基づく連携に改善すべき点がさらに露見されたことから今回の研究を行い、さらなる改善を行なった。

今年度の研究により、学生、コーディネーターの両者にとって連携上に運用しやすい「学びの仕組み」が出来たと考える。

今後は、再々構築したシステムでの連携運用の検証を行い、さらにレベルアップした「学びの仕組み」を目指していきたい。